

演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のろーしチ、デイベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875(明治8)年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

たかはしいくお
高橋郁夫

慶應義塾を支える基金の役割

慶應義塾で寄付が継続的に行われるようになったのは、福澤先生逝去直後の1901年に、義塾の財政基盤を少しでも支えようと慶應義塾社中が協力して慶應義塾維持会が設立されたことが発端といわれています。それは、現在でも維持会基金として存続しており、主に奨学金給付事業が行われています。

皆さまからの貴重な寄付金は、施設の建設や奨学金等のために資金として消費される場合と、基金に組み込まれ、その運用益(あらかじめ定めた利率分・2~3%程度)が対象となる事業に使われる場合があります。後者では、寄付者の意思が込められたそのお金は直接消費されることなく義塾に保全されるため、その事業は未来永劫続けることができます。

慶應義塾を支える基金は、篤志家からの大口寄付で設立されたものなどを含め数十種類ありますが、2018年度末の残高は全体で約731億円となっています。基金のうち、毎年発行される「事業報告書」の基金リストの冒頭にあるのが、1960年代に設置された福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金(残高約24億円)と小泉信三記念慶應義塾学事振興基金(残高約20

円)です。福澤基金は、研究者の育成、国外留学、論文執筆等の活動を、小泉基金は、体育会活動、大学院生への奨学金、一貫教育校生徒・児童への学事振興事業等を、それぞれ行うために使われています。

国からの私学助成金は、年々減少傾向にあり、また、競争的研究資金の獲得には不向きな長い学問領域も多く存在します。さらに、体育会や一貫教育校の国際化等に向けた資金援助も十分とはいえない状況です。

そこで、昨年11月末、福澤・小泉両基金に関する趣意書、約30万部を塾員、教職員、塾生の保護者の皆さまに配布して募金キャンペーンを始めましたが、おかげさまで、この3月末の時点で両基金合わせて約3億円が個人、法人、団体から届けられております。2020年度末までには皆さまからのご支援と義塾の資金強化により両基金の合計残高が60億円に達するよう取り組んでまいります。詳細は慶應義塾基金室のホームページからもアクセスできますので、将来を担う塾生・研究者のため、今後ともご協力をお願いいたします。

※「慶應義塾へご支援をお考えの皆様」Webサイト: <https://kikin.keio.ac.jp/>